大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム

長期プロジェクトコース

プロジェクト報告書

株式会社インサイトハウス

小林奈央　岩田皐央

2023 年 11 月 16 日

プロジェクトの活動と成果物について

1.　はじめに

このレポートは、私たちが株式会社インサイトハウスのインターンシップ生として活動した 6 月から 11 月までのおよそ 5ヶ月間の活動についてまと め、報告することを目的とする。

2.　概要

2-1 株式会社インサイトハウスについて

株式会社インサイトハウスは、TOMOSU GROUP（トモスグループ）として京都市山科区を中心に事業を展開する不動産会社である。「人の前に明かりを灯す。」というグループ理念の下、「山科を”住みたい街”ナンバーワンに。」という未来を目指し、地域とのつながりを大切にしたオンリーワンサービスを提供している。TOMOSU グループは不動産事業の外、お弁当事業、宿泊事業、ネイルサロンなど暮らしに関わる「い」場所をつくり続け、皆が主役になれる社会の実現を目指して事業を行っている。

2-2 プロジェクトについて

このプロジェクトでは、主に大学生が山科の人や魅力を発信しており、ひとりひとりが活躍できる社会の実現を目指している。例年の活動は、インタビューを通したフリーペーパーの作成などである。

2-3　プロジェクト目標

山科区は人口が減少しているが、山科区以外に住んでいる人に山科区がどんなところなのかあまり知られていないという現状がある。そこで、山科の魅力を発信することによって、山科に住んでいる人を増やすことをビジョンとして設定した。今回は、山科区以外に住んでいる人に向けて山科区について知ってもらうことを目標として活動を行った。また、きょうのやましなさんプロジェクトが毎年短期的になっており、なかなか山科区以外の人たちに活動が広まっていないという課題があった。そこで、長期的に続けてもらえるように意識した。

3.　活動内容

主に、私たちはイベント企画、インタビュー活動、成果物の作成を行った。活動記録については以下の通りである。

6 月 30 日	会社事前訪問
7 月中旬	太田様によるコミュニケーション講座受講
7 月下旬～8 月上旬	イベント概要の決定
8 月中旬～8 月下旬	インタビュー
9 月上旬	マップ作成に企画変更
9 月中旬	インタビュー先のアポ取り
9 月中旬～10 月上旬	インタビュー
10 月上旬～10 月中旬	マップ作成
10 月中旬～11 月上旬	マップ訂正
11 月上旬	マップ入稿
11 月中旬～（予定）	マップ配布

3.1　イベント計画

初めには、山科の魅力を発信するためには、山科に実際に来てもらい、人の温かさを知ってもらうのがいいと考え、イベントを企画することを考えた。内容は、パンフェスを開くというものである。イベントの企画書を作成し、イベントが実現可能かについてのインタビューを山科にあるパン屋さんにおこなったが、山科のパン屋さんは個人経営のお店が多く、イベントにまで手が回らないということや、日時や場所が決まっていないイベントに参加することは難しいという意見をいただいた。また、私たちの課題は、企画立案がはじめてで手間取ったことや、パン屋さんの気持ちを考え切れておらず、自分たちがやりたいことを押し通し気味になっていたことである。イベントをすることに執着してしまい、パンフェスだけでなく、謎解き要素を入れたイベントやハロウィンイベントまで考えていた。最初はイベントを開催することに強い思いを持っていたので、色々葛藤はあった。しかし、現実的な問題もあり諦めるという決断をとりマップ作成に変更した。例年のやましなさんの課題が毎年のプロジェクトが短期的なものになっていてなかなか外部に広まらないという課題があったので、来年以降もつなげていけるようにすることを意識した。遠回りしてしまったが、この時期が一番考え悩みぬいた時間であり、無駄な時間ではなかったと感じている。

3.2　インタビュー活動

プロジェクトを行うにあたり、株式会社インサイトハウスの太田さんからコミュニケーション講座を受講させていただだいた。ここでは、どのような聞き方をすれば、相手も快く

話すことができるのかということを特に重点的に話してくださり、話を聞く時に相手の目線に立つことが大切だということを教えていただいた。

プロジェクトの活動では、実際に 20 店舗程度にインタビューした。インタビューでの主な質問内容は、お店を開くことを決めた経緯、仕事のやりがい、山科のよいところ、そして今後の展望などである。お忙しいにも関わらず、たくさんの飲食店の方がインタビューに協力し、私たちのプロジェクトを後押ししてくださったことが、プロジェクトの活動を続けていく上での大きな原動力となった。インタビューの中で、仕事に対する熱意を感じる話をたくさん聞くことができ、やりがいをもって働くことの大切さを痛感した。インタビューでお店の成り立ちなどを聞くなかで、相手の方の人生を振り返るようなこともあり、そのような普段は聞くことのできないような深い話が聞けたことも貴重な経験となった。

インタビューでは、初めのうちは考えておいた質問内容を一問一答のように答えてもらうという形になりがちだったが、回数を重ねるごとに、会話の流れに合わせたインタビューをすることができるようになり、成長したと感じた。

3.2　成果物

今回のプロジェクトでは、フリーペーパーを作成した。フリーペーパーの内容は、山科魅力発見マップというもので、ガイドマップのようになっており、インタビューしたお店、お寺や山科疏水などの見どころを記したマップ、個別のお店のインタビュー内容の掲載、そしてコラージュできるページがある。工夫した点は、コラージュが作成できるページである。冊子を手に取ってくださり山科を巡ってくださった方々が、自由に山科について感じたことや気づいたことを共有できるようになっている。私たち作り手だけでなく、冊子を手に取ってくださったか方々も作り手となって、山科を盛り上げていけたら幸いである。11 月 7 日に印刷の注文をすることができ、500 部印刷した。配布については、現状ではまだできておらず、これからおこなっていく予定である。

4.　改善点

活動を通して、主に改善するべき点が 3 点あったと考える。

1 点目は、イベント企画をするか否かで迷っていた時に、インタビューを 2 週間ほど停止してしまったことである。きょうのやましなさんプロジェクトはインタビューを通して山科の魅力を伝えるという趣旨があるにも関わらず、次に進めなかったことは反省点だ。

2 点目は、成果物の入稿までに思っていた以上に時間がかかりすぎてしまったことである。私たちは約 2 週間でデザインから入稿まで終わると思っていたが、実際には訂正などの細かい作業が大変だったので、約 1 ヶ月かかってしまった。細かい作業はとても大切であり、甘く見すぎていた点は反省点である。

3 点目は、スケジュール管理が上手くできなかったことである。もう少し上手くできていたら、SNS 運用などの他の活動にも力を入れることができたのではないかと考えた。

4点目は、受け入れ先とのコミュニケーションが少なかったことである。私たちは、自分たちのみで活動することが多かったので、どうしても連絡がおろそかになりがちだった。もう少しコミュニケーションがあったら、私たちも良い意見を取り入れることができたり、株式会社インサイトハウス様にも良い影響を与えることができたかもしれないと考えた。

これらの改善点は、次のプロジェクト生に伝えて、より良いプロジェクトになるようにしていただきたいと考えている。

5. まとめ

私たちは、きょうのやましなさんプロジェクトを通して、成果物である冊子を作成することができた。インタビューや冊子を作成する中で、私たち自身が山科の魅力に気づき、山科の魅力を発信することができたと考える。また、色々な方にインタビューすることで、考え方が広がった。そして、プロジェクト全体を通して、社会人に必要なスキルを学ぶことができた。

約半年間、私たちの活動に携わってくださった株式会社インサイトハウス様、インタビューにご協力してくださった山科の方々、コーディネーターの先生方、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の方々に心から感謝する。